

まつもと じゅん
松本純

中区・磯子区・金沢区
**まちかど
政治瓦版**



平成15年6月16日号
発行 かながわ1区支部

No. 1

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ www.jun.or.jp

永田町を去って3年。 いま、自分の言葉で話したい！

あの総選挙から、早いもので3年がたちました。

《サルは木から落ちててもサルだが、代議士は選挙で落ちたらタダの人》
これは、いつの時代でも政界で語られる言葉です。

私は2期目をめざした2000（平成12）年6月の総選挙で落選して
“タダの人”になりましたが、そのことによって、それまでより多くのことを学んだような気がします。



「私は代議士になって、はたして自分の言葉で話をしてきただろうか」

学んだことで最も大きなことが、この思いです。

永田町には、「前向きに検討します」という言葉の真の意味が、
「何もしません」であるということなのをはじめ、そこだけで通用する言葉が数多くあります。

これは話し方の問題ですが、先日、私は友人から注意されました。
ひとつは、「……させていただいております」という、本人は謙そんするつもりで言っている、それを連発することでなぜか尊大に、つまりエラそうに聞こえる言い回し。もうひとつは、国会の大臣答弁でよく耳にしますが、「……しているところでございます」という、ふだんの会話では絶対出てこない言い方です。



「最近、人前で話をするとき、君にもそういう言い方が多いぞ」
その友人はこう言うのです。

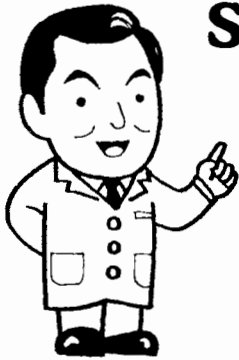
永田町ではあたりまえのそんな言葉や言い方に日常的に接し続けてきて、そういう言葉で話すことが、一人前の政治家になった、と勘違いするということがあったかもしれません。

そこで、再び国政に挑戦するにあたって

私は最初のときがそうであったように、自分の言葉で有権者の皆さんに語りかけることから始めようと決意しました。この瓦版は、活字を通したその試みです。

お読みいただき、ご感想、ご意見をいただければ幸いです。

もてる知恵を総動員し、全力を尽くして SARS(サーズ)を防がなければ!



さて、私は政治家になる前には薬剤師であり、薬局の経営者でした。これは政治家であるいまも変わらないことです。

親が横浜の野毛で薬局を経営していたことから、この道に入ったわけですが、ですから人の命、人の健康については、人一倍、いや人三倍の関心を持ち、私はこのことを政治家としての永遠のテーマにしようと思いました。

健康といえども、世界中で新型肺炎SARS(サーズ)との戦いが展開されています。私は毎日、《朝立ち》、いけないこれも政治用語ですね。政治家が朝、駅前などに立って、自分の考えを有権者の皆さんに訴えることですが、ここでもSARSのことを話しています。

正直言って、反応はイマイチという感じです。日本国内で発症患者が出ていないということからだと思えます(出てしまったら大変ですが)が、これはあの憎むべきテロと同じように人類共通の敵です。

先日、SARSに感染した台湾人医師が日本国内を旅行していたということで大騒ぎになりましたね。そのとき、大阪府知事は「国が十分な情報を提供してくれない」と厚生労働省を非難しました。確かに、その後に明らかにされた厚労省の危機感のなさは重大です。が、大阪府の中でも情報が渋滞して、速やかに伝わらなかったということも指摘されています。

人類が初めて経験することですから、混乱も予想されますし、現に世界中で混乱が起っています。でも、少なくとも国内ではいま、「そちらが悪い」「そちらだって」と言いあっているヒマはないのです。国も地方自治体も、もてる知恵を総動員し全力を尽くしてSARSを防がなければならないときなのです。

もし、皆さんの周辺にご心配のことがありましたら、役所の問い合わせ先を書いておきますのでご利用ください。

SARS(サーズ)に関する 問い合わせ先

- 横浜市SARS専用電話相談
24時間受付 TEL211-1580
- 横浜市衛生局感染症・難病対策課感染症係
TEL671-2462 (8:45~17:15)
- 福祉保健センター福祉保健課健康づくり係
(平日8:45~17:15)
☆中 区 TEL224-8332
☆磯子区 TEL750-2445
☆金沢区 TEL788-7840

まつもと じゅん プロフィール

昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ。本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師。製薬会社を経て、(有)松本薬局に入社。現在は代表取締役。本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長として、街づくりや地域活動に取り



松本 純

組む。平成2年、横浜市議中区補欠選で初当選、3期務める。平成8年、衆議院総選挙で神奈川1区当選。専門を生かして医療・福祉・介護・年金などに全力投球。平成12年の総選挙で次点落選。現在は自民党衆議院神奈川1区支部長として国政復帰奮闘中。